報告 REPORT

令和６年度北海道病院団体懇談会

常任理事・地域医療部長　青木（あおき）　秀俊（ひでとし）

令和６年12月15日（日）、北海道病院団体懇談会を開催した。構成団体は当会を含め15団体で、出席者は12団体15名であった。

今回、先に開催の病院管理研修会講師の仲井培雄先生にも引き続きご出席いただき意見交換を行った。

主な内容を紹介する。

話題提供

日本赤十字社（以後：日赤）北海道支部より、「令和６年度日本赤十字社第一ブロック支部合同災害救護訓練の紹介－今後の大規模災害に備えて－」と題して、北見赤十字病院・谷口治先生より、訓練内容について話題提供いただいた。

◎訓練概要

令和６年10月４日～５日、日赤第一ブロック支部の東北６県ならびに道内10病院の計18救護班及び日赤本社、支部スタッフが集まる大規模訓練を実施。

◎訓練計画時の位置づけ

テーマを「避難所支援」とし、保健師と協働。

◎参加者・訓練想定

日赤北海道・東北各支部、日赤北海道看護大学生、オホーツク振興局管内の保健所・市町より保健師・行政職、北海道薬剤師会等、参加者は500名を超えた。

北見市を震源とするマグニチュード8.7の地震により、ライフラインに甚大な被害が発生。日赤北海道支部は、道災害対策本部に災害医療コーディネーターを派遣するとともに、道保健医療福祉調整本部の要請により赤十字病院救護班の派遣を決定したほか、長期的活動を見込み、救護班の派遣を要請。

◎訓練シナリオのポイント

発災３日目で、既に多機関が避難所等の支援活動を始めている想定の下、日赤救護班と保健師が避難所の巡回診療や避難所ニーズ、環境アセスメントなどを連携して行う初の訓練シナリオ。

◎訓練の組織体制

北海道保健医療福祉調整本部の下、保健所に地域調整本部、市町に対策本部を設置する三層構造。

◎実働訓練　前日の学習プログラム

事前に、前日１日かけて行う実働訓練プログラムを作成。避難所アセスメント演習では、避難所には体育館型と公民館型がある中レイアウトや必要な物、日赤救護班はどのように活動しなければいけないか机上で確認の上、「災害時における薬剤師及び保健所の役割」と題した講義を実施し、知識を蓄え臨んだ。

◎当日訓練項目・時間配分

日赤救護班は避難所アセスメント演習、巡回診療・救護所演習、災害処方箋の発行等のほか、指揮系統を確認し、保健活動班や他団体との情報共有・連携する訓練を実施。保健活動班は避難住民の健康観察により課題を見つけ、対策を考えるほか、日赤救護班や上位組織との情報共有・連携する訓練を実施。演習時間は60分で、その前後に各本部単位で確認作業を実施。

質疑応答

白崎常任理事

薬剤師との協働訓練に関して、薬の特定や処方をする上での注意点や、避難所でのマイナンバーカードの情報確認方法について教えていただきたい。

日赤・谷口先生

マイナンバーカードに関する答えを私は持ち合わせていないが、日本薬剤師会では、災害薬事研修コースを実施し問題点を精査している。情報が入ればお伝えしたい。

西川支部長（全国自治体病院協議会北海道支部）

谷口先生の資料では北海道やDMATが指揮命令系統のトップにあり、そこが命令を下さないと動かないとも見れるが、流れを教えていただきたい。

日赤・谷口先生

指揮系統は北海道に従う。日赤もDMATもその指揮下でサポートする。

西川支部長（全国自治体病院協議会北海道支部）

札幌市などでは日赤がメインとなるシナリオを既に持っているのか。

日赤・谷口先生

日赤が主導権を持っているということではない。今回の訓練を避難所の救護活動に絞ったのは、日赤の得意分野の強化が目的である。

青木常任理事

12月８日（日）に当会の救急医療対策部会小委員会にて、本道で冬に発災した場合にどうなるのかとの話が出た。合同災害救護訓練中話題となったか。

日赤・谷口先生

秋の開催であったが、寒さへの指摘は多く、寒冷地の避難所の寒さ対策をどうするか重要と考えている。

意見交換（主な内容）

⑴　大規模災害に備えた行政との連携

西川支部長（全国自治体病院協議会北海道支部）

札幌市には危機管理局があるが、医療は想定していない。DMATや医師会とですり合わせが必要として準備している。

和田先生（済生会支部北海道済生会）

小樽市の地域防災計画に基づいて、当支部では中等症の患者を受け入れることとなっている。道路を挟んだウイングベイ小樽内のイオン北海道と災害時の協定を結んでいる。自家発電機能を備えており、

災害の際に互いに協力しながら１～２日間被災者の避難所として利用できるよう、整備を検討している。

⑵　災害時の備蓄・物流

青木常任理事

市立旭川病院は災害時の重要施設に指定されており、上川総合振興局を通じて重油を優先的に給油される体制となっている。

西川支部長（全国自治体病院協議会北海道支部）

市立札幌病院は近接するイオンと提携している。東日本大震災後、非常用電源設備を導入しており、ブラックアウトの際にも電気が通っていた。透析患者や在宅酸素利用者等の弱者への対応について、札幌市医師会では個人情報の問題に対処しつつ、札幌市と協議を重ねている。

和田先生（済生会支部北海道済生会）

済生会小樽病院では、イオン北海道と協定を結んでいると話したが、ブラックアウトの際は、イオンの現場に話が伝わっておらず苦労した。病院自体では水・食料を３日分備蓄し、重要施設として道との協定で重油も優先的に供給いただける。電気に関して非常用発電機重油の備蓄が３日分ある。

伊東先生（北海道医療センター）

11月29日に札幌近郊で直下型地震が起こり、震度６を計測したとして、病院あげての災害訓練を実施。当センターは60時間非常用電源が使え、食料も３日分備蓄しているが、近隣施設の透析や人工呼吸器が使えない状況で、何名の受け入れが可能かなどクリティカルな問題が次から次へとあり、札幌市全体で発生する被害者をどう救うのか全く見えなかった。

中村理事長（北海道病院協会）

民間病院では、必ず年に１回は電源を止めて、非常用電源利用の訓練をする。市立札幌病院などはそのような訓練をしているのか。また、食料については外部委託しているが、委託先業者と契約はしているものの実際に用意はしておらず、その体制をチェックしないと有事の際には非常時のための対応はできないと思う。

成田支部長（日本病院会北海道ブロック支部）

BCPの観点から、３日分の食料や重油の備蓄は常識だと思う。札幌市医師会東区支部ではBCPに関する冊子を作り、支部内にある５件の急性期病院を東区全体で考えようとしている。

⑶　災害対応訓練の実施

成田支部長（日本病院会北海道ブロック支部）

年に１回電源を落とし、15分間非常用電源を使用している。ブラックアウトの際は非常用電源をフル装備で運転し続け重油がすぐに枯渇し、業者へ依頼も民間病院は優先順位が低く苦労した。その後契約し、優先的供給が可能となったが、電源がないと重油をくみ上げることができず、電源車とタンクローリーをセットで動かさなければいけないことを学んだ。

和田先生（済生会支部北海道済生会）

小樽市の場合、市立病院が災害拠点病院で、ブラックアウトの２週間前に全市の災害訓練を行い、役立ったのを覚えている。済生会では日赤と同じように、東北・北海道ブロックの災害訓練を実施している。令和５年11月は山形で開催され、東北の諸先生は震災を経験されているので勉強となった。

コメント

白崎常任理事

冬場の大規模な災害時は数時間以内に避難所を立ち上げなければならず、普段よりも行政との関係を密にして何度も訓練する必要がある。自家発電用燃料が大事ということが分かったと思うが、給油は給油口のサイズや油の種類など確認していないと手間となるので、そういう情報を各病院が持っている必要がある。北海道は北海道石油業協同組合連合会と協定を結び、事前に登録された重要施設と認識されている病院へ優先的に燃料が供給され、未登録施設も緊急時に燃料が枯渇して困った際、燃料供給要請ができるようになっている。北海道がそこをカバーする体制にあることもご承知おきいただきたい。

災害対応訓練に関しては、エスコンフィールド内で何かあった際のシミュレーションを準備している。また、新千歳空港での航空機事故の訓練に参加し、参加していないと様々な導線が分からなかったことが確認できた。冬場の災害に向け各自治体で衣服や暖房設備を備蓄しておく必要がある。

仲井講師（ほうじゅグループ代表）

発災間もなく、陸海路が途絶し、インフラが壊滅した半島内では、空路や一部陸路で、大量の患者・要介護者を金沢以南へ搬送することとなった。被災地での医療・介護は、患者・利用者が減少し、医療者も少なからず避難したことで、需要も供給も揺らいだ。一方、搬送先の病院では、自宅や施設に退院できる患者が、避難先における地縁血縁の欠如と介護施設の需要過多により退院が叶わず、一時的に救急搬送が滞った。透析患者も通院に切り替える際、宿泊先の確保に難航した。また、被災者の処方は、オンライン資格確認のアクティブ化で、保険証やマイナンバーカードがなくとも調べることができた。病院や避難所ではトイレが使えなくなった。スフィア基準では、トイレは20人に１個必要で、女性はその３倍必要だが、避難所では全く足りず、酷く不衛生な状況となった。一部では、校庭に穴を掘りトイレを増設したと聞いた。

各団体からの報告・情報提供

北海道民主医療機関連合会の黒川会長より、全日本民主医療機関連合会が実施した、医療機関の経営状況アンケートの結果について、北海道病院協会の中村理事長より令和６年７月13日に開催された「第23回北海道病院学会」について、全日本病院協会北海道支部の河村事務局長からは、令和７年10月11日（土）・12日（日）に、「第66回全日本病院学会in北海道」を開催する旨の報告・情報提供をいただいた。